



2025年

新年特別号

新年の挨拶

社会福祉法人日本心身障害児協会
理事長 河 幹夫



何事にも時があり、天の下の出来事には全て定められた時がある。(「聖書」箴言3:1)

島田療育センターにおいても時というものの大切さを思う。7年余りに及ぶ検討と準備、補助金の申請と承認、そして着工に向けての準備と、大切な時を費やしてきた。そして今、夢を抱きつつ共に力を合わせて進んで行きたいと思う。諸兄弟のご協力をお願いしたい。

創刊30周年を迎えて

島田療育センターニュース編集委員会

センターの活動や出来事を伝えるために

当誌「島田療育センターニュース」は2024年11月に創刊30周年を迎えました。1994年の創刊当時は発行の目的を以下のように掲げていました。

定期的に発行することで、島田療育センターでの動きや考え方、出来事を父母や職員に伝える。それによって意思疎通を図り、共通の認識を育てる一助とし、もって入所児(者)のよりよい療育に役立てる

現在は上記に加えて全国の重症心身障害児(者)施設に向けても配布させていただいています。また、2020年6月からは地域向けとして発行していた情報誌「ネットワークしまだ」との統合を果たし、近隣の保育園や幼稚園、学校や保護者向けの情報掲載・配布も行っており、より広く、多くの方に向けて当センターの情報を発信する役割を担っています。

見やすさ・読みやすさへの配慮

紙面の見やすさ・読みやすさに対しても創意工夫を凝らしてきました。記事作成の際は写真や画像を交えて文字ばかりにならないように調整を行ったり、文章が読みやすくなるようにユニバーサルデザインフォントの採用や行間の調整などを行ってきました。また、2024年からはメールでの配信も開始し、閲覧や共有のしやすさにも配慮しています。

センター内での共有

2024年11月には、センター内の研究や活動を発表する場である「島田療育センター集談会」の中で今までの活動報告も行いました。歴代の紙面デザインや、過去の号の紹介も行い、当センターの職員にあらためて当誌に興味をもってもらい、発行の目的を知ってもらう機会としました。

これからも初心を忘れず、皆様に当センターの活動をお伝えするために発行を継続してまいりますので、今後とも変わらぬご愛読をいただければ幸いです。

過去の号の紙面



左から順に1号、100号、200号、300号

幹部職員による

新年 ちょっとひと言



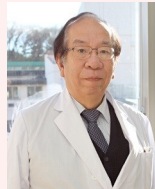
お題は…

タイムマシンが使えるら何をしたいですか？



河 幹夫 理事長

江戸時代に桶と手ぬぐいを抱えて、
町を散策したいですね。



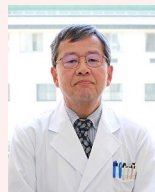
木実谷 哲史 名誉院長

最近のブームに乗って源氏物語を読んでいます。
若菜と柏木の巻が気に入っています。千年読み続け
られているだけあって現代の人間模様にも通
じますね。あの時代を自分で体験してみたい。



久保田 雅也 院長

若かった頃の自分に説教したい。



高山 真一郎 副院長

ジュラシックパークではありませんが、本物
の恐竜が闊歩しているところを見たい。



小沢 浩 統括副院長

13年前に戻って、あせらずゆっくりやれよ
と、自分に伝えにしようかな。



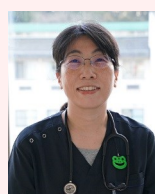
鮎澤 浩一 経営企画室室長

100年後の未来をみて、今必要なこと、
自分ができることを考えて行動したい。



野村 健介 医務部長

後悔だらけの人生ですが、時間を遡ってそれ
を直すと今の素敵な仕事はしていないでしょ
うし、未来は仲間と一緒に変えていくのが楽
しみなので、使えても使いません。



中村 由紀子 医務部長 兼 小児科長

あんまり考えたことがないのですが…江戸時
代の町民になって、町の定食屋でご飯を食
べてみたい。読売の口上も見たい。水戸の
ご老公に会いたい。



落合 三枝子 療育局長

過去の歴史上の色々な人物に会ってみたい
です。その時にどんな想いで行動したのか…小
説だけではわからないこともあるので、聞いて
みたいです。



森久保 真由美 事務局長 兼 支援部長

3年後の島田療育センターに行きたい。今、
行っている新病棟建築計画の結果どのような
病棟が建ちあがっているか見て安心したい。



高山 昌子 リハビリテーション部長

歴史上のいろいろなでき事の場面に立ち会っ
て、そこで起こっていることを自分の目で
見たい。



岸野 栄一 リハビリテーション部次長

映画『Back to the Future』が大好きな
ので、1985年、1955年、2015年、1885年、
2035年に行ってみたいです。

